

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・リビングに理念を掲示し、職員が日々確認し共有できるよう努めています。	開所後3年目、今から9年前に法人の理念に基づき職員で話し合い決めた理念がある。玄関、リビングに掲げいつでも確認できるようになっている。特に唱和や振り返りの機会はないが、職員一人ひとりが理念を踏まえ日々の支援にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事への参加、近隣保育園との交流、地域包括主催の認知症カフェへの参加を行っています。	町内唯一のグループホームとして、近隣住民からは暖かく見守られている。秋の町内運動会、敬老会、町全体の避難訓練に利用者と共に参加してもらったり、事業所のクリスマス会には毎年近くの保育園児が訪問し利用者と触れ合い、利用者の楽しみとなっている。聖籠町ならではのサッカーカレッジからボランティアの訪問、社協主催の認知症カフェに出かけたりと交流は活発に行われている。事業所としても認知症カフェ開催の企画もあり積極的に地域に溶け込み活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的発信を行っていなかったため、今後、当施設にてカフェを開催し交流を図っていく予定です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、ご家族・役場・包括・民生委員・町内会長へ出席をお願いし意見交換を行っております。	運営推進会議には毎回役場職員、包括職員、利用者家族数名、地域の役員等、事業所を取り巻く関係者が多数参加している。それぞれの立場から意見が出され、運営に反映されるよう努めている。例えば行事案内送付の確認の提案、緊急時を想定した避難滑り台の実際の利用方法の確認、AED設置場所等々、現場を重視した内容の意見が多く出され、職員間で検討し運営に活かしている。会議の内容、進捗状況等はファイルされ玄関に設置しており、家族もいつでも閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退居の情報その他、ご利用者についての相談やケアマネ連絡会への参加など積極的に交流をしています。	役場担当者が毎回運営推進会議に出席し、事業所の内情は把握されている。入退居の情報や報告等も随時行い必要に応じて出向く等、良い関係性は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等は夜間以外は開錠しており、またマニュアルの作成、研修を行い身体拘束を行わないケアを実践できるように努めています。	内部研修を年2回実施し職員全員は拘束について正しく理解している。夜間以外、玄関の施錠はしない基本とし、出たい利用者には話題を変え席に戻られたり、一緒に出かけたりと寄り添っている。行動制限はせず職員が気配り、目配りし利用者の安全を確保している。現在自室ベッドで休まれる時はセンサーマットが必要な利用者が4名おられる。家族にはリスクと共にマットの必要性を十分説明し使用している。できるだけ早期にマットを外せるよう支援の方法等も職員間で検討しているところである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を施設内部で実施し、日々のご利用者の対応について職員間で情報を共有し虐待の防止に努めています。	身体拘束と共に年2回研修を実施し、職員は定義等は理解している。マニュアルもしっかり整備され研修会での読み込み、確認チェックシートを活用する等、日頃の支援を振り返る機会がある。また職員間でも相互に注意し日々の支援にあたっている。管理者は職員のストレスに注意を払い相談しやすい雰囲気作りにも配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常自立支援事業利用のご利用者が入所されているため、制度については都度職員間で確認し合いながら支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際に十分に説明しご理解いただけるよう、不安や疑問点をうかがっております。また、不明な点においては、都度質問を受け付けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への呼びかけのほか、ご出席できないご家族も多いので面会時に意見や要望がいただけるよう声かけを行っています。	毎回運営推進会議には家族全員に声をかけ、より多くの家族の出席、意見を聞く機会となるよう努めている。面会時や電話連絡時にも要望、意見は伺うように心掛けている。提案意見は職員間で検討し運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個人面談を通じ意見交換できる場を設けています。また普段から会話することを心掛けコミュニケーションを図るよう努めています。	毎月の職員会議前に各職員が意見等を記入し、リーダーが意見をまとめ会議で検討している。毎朝の申し送り時や、意識的に時間を見つけては管理者は職員に声をかけ、意見を聞く機会を作っている。管理者も現場に入ることも多々あり、相談しやすい雰囲気となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりひとりと少しずつでも話す機会を設け思いを聴けるよう努め、研修を通し仕事への意欲を持てるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部のみの研修でなく外部で行われる研修へも参加し、個々の能力の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修にて外部とのつながりを持ち、情報を交換し、施設内でも得た情報を共有するよう努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを大事にしており、ご家族からも協力頂き、言葉にできないことも汲み取れるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望を十分に伺いサービス提供に繋げるよう努力しています。面会時にも施設内での様子をお話しご要望など話しやすいような雰囲気作りを心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族のお気持ちを伺い、どのようなサービスが適しているのか、納得いただけるまで一緒に考えながら支援をするよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者を尊重し、日常作業を共にした生活を行っており、また声かけにも配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者へのケアについて相談すると共に、ご家族の思いを尊重し、良好な関係が築けるよう心掛けています。	入居し安心している家族が多い中、事業所は家族は利用者にとってかけがえのない存在であると認識し、折に触れ連絡や足を運んでもらえるように努めている。3ヶ月に一度発送の便りには、本人の近況を記入し身近に感じてもらえる取り組みや、定期以外の受診の付き添い、外泊の支援等それぞれできる範囲での支援がなされている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	聖籠町や町内行事への参加の他、受診や床屋など行きつけの場所へ通えるよう、ご家族からも協力を頂いています。	毎年、町内の敬老会に利用者全員で参加し、それぞれ顔見知りの方々と触れ合う機会がある。多くはないが友人の訪問や、馴染みの理美容室を利用する方、近くの医院に受診時にも顔なじみの方が声をかけてくれる等、触れ合う機会を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が交流できるよう職員が橋渡しをしたり、行事や日常の共同作業を通じてかかわり合えるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への入所となった際は、その後も様子を伺ったり、必要な情報提供を行ったりするようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前よりご本人の生活状況の詳細を収集し、入所後もアセスメントしご本人、ご家族の意向を伺うよう心掛けています。	入居前に自宅訪問してフェースシートを基に本人、家族の思いや意向を詳細に汲み取り記録し、アセスメントを実施している。入居後の日々の生活に寄り添うことで見えてくる、気付きや言動、表現をも逃すことなく一人ひとりの目線に合わせ、その人らしい生活が送れるように支援している。気になる点や注意点などは申し送りノートに記録して全職員で共有に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の様子について、ご本人、ご家族、担当ケアマネより伺いスムーズに施設になじめ支援できるよう努めています。	入居前に確認したアセスメントシートを活用して、今までの生活歴や馴染みの暮らしや環境を把握してセンター方式シートを作成している。前任のケアマネージャーやサービス事業所からも情報提供してもらい、入居後の生活が安心できるように努めている。家族からも適宜情報を得たり、職員間での情報共有することで、これまでの暮らしが継続できるように支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できることやしたいこと、できないことや苦手なことを把握し、身体機能を維持しながらも無理なく過ごしていただけるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行う職員会議でのカンファレンスのほか、状況の変化に応じ担当者が中心となってカンファレンスを開いています。	本人、家族の意向を確認して、ケアマネージャーが中心となり介護計画を作成している。3ヶ月毎に計画作成担当者がモニタリングを実施している。6ヶ月毎にケアプランの見直し、日々の生活から見えてくる現状を把握している。状態の変化時は担当者がカンファレンスを開催して、全職員から意見を募り、現状に即した介護計画をケアマネージャーが作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の中での様子、気づきを記録し、情報が共有できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向、ご家族の意向や状況を考慮し、施設として対応できる支援を提案・提供させていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内活動への参加や、町内の床屋・スーパーの活用、外出時にはなじみの場所へ行くなど、生まれ育った地域で楽しめるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族がご希望される機関での受診を基本としています。協力医師の往診もあり安心して医療が受けられるよう支援しています。	本人、家族が希望するかかりつけ医を尊重しているが、入居後は協力医師の往診に移行される方が8割以上である。同町内の医院への受診は職員が同行しているが同町内以外の受診は家族にお願いしている。週3回看護師から健康管理や服薬確認、24時間連絡対応や主治医との連携も整備されている。医師との連絡表や病院受診報告書にて連携を図り、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護師と連絡が取れ、些細な変化でもすぐに相談できる体制が構築されています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、病院の看護師や相談員へ速やかに情報提供を行い、ご利用やご家族に安心していただける様、支援しています。退院時も相談員と話し合いスムーズに施設へ戻れるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期の段階でご家族と話し合いの場を設け、方針を共有するよう心掛けています。また、必要に応じ主治医も交え話し合うようにしています。	事業所としては看取りケアは行わない方針である。入居契約時に「重度化対応、終末期ケア対応方針」について説明し同意を得ている。要介護度が高くなった時は、医師の診断により、事業所としての当該施設における通常介護では対応出来る範囲外の状態と当該施設で判断した時には、今後の方向性について家族と相談し、特別養護老人ホームや老人保健施設等を紹介して、現状に合った支援を繋げる推進もしている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、救命救急講習を受講しています。また看護師を中心として随時勉強会を開いています。	急変時や事故発生時のマニュアルやフローチャートも整備され、リビングの目に付く場所に設置されている。年1回、救命救急講習に参加してAED操作も全職員が修得している。看護師からも一人ひとりの観察ポイントや急変時、初期対応の勉強会を開催し指導してもらうことで実践力を身につけている。またユニット同士の連携体制も整っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練で日勤・夜勤想定 of 訓練を実施しています。また適宜、防災マニュアルの見直しを行っています。	年2回、防災委員会が主体となり、昼夜を想定した避難訓練を実施し全職員が対応方法を身につけている。地域の避難訓練にも参加して協力体制は整っている。各種災害のマニュアルは随時見直しを行って整備している。非常食や非常時に必要な備品も定期的に委員会の方で確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体状況、性格、今までの生活暦等、尊重した対応を心掛けています。	プライバシー保護や接遇について内部研修を実施し、全職員が徹底している。一人ひとりに合った言葉かけや介助時にはその方の誇りを損ねないように支援している。不適切な対応時には注意し合い振り返りも行っている。日々の生活の中でも慣れ合いにならないよう距離感も大事にしている。日々の記録や個人情報の管理も責任ある取り扱いが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや希望を、その方の状況に合わせた選択肢で考え支援しています。また、言葉にできない方に対しては表情や動きなどを見ながら支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の性格や、一日の過ごしかた、気分や体調などを考慮し、その方のペースに合わせた生活をしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や好みなどその方に合ったものなるべくご自分で選んでいただけるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付けを少しずつでもできるように、役割分担をし、一緒に行っています。	利用者と職員が同じテーブルを囲み会話を楽しみながらの食事となっている。献立は同法人の管理栄養士が作成している。食事作りは利用者の出来る範囲で一緒に作り、利用者の出来る能力を引き出している。外食や弁当、季節食などの楽しみの食事も企画している。また誕生日の方は担当職員と共に外食を楽しむ企画も設定されている。畑で収穫した野菜や近隣から貰った野菜があれば、その都度メニューも変更して食べる喜びを醸し出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量を記録し情報を共有しています。また箸や茶碗はご本人の使い慣れたものを利用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできるところは行っていただき、難しい部分のみ支援をしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの状態に合わせて定期的に声かけ、見守り、介助を行っています。	排泄チェック表は昼と夜で色を変えてパターンを把握している。一人ひとりの習慣やサイン、身体機能面を理解し、さりげない声かけや見守りを行なっている。本人の意思に寄り添い、適切な支援が出来るように全職員が統一した援助方法を修得し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握や体操、歩行訓練をかねた運動等行い、スムーズに排泄できるよう支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	前回の入浴日を考慮し、入浴の声かけを行っています。熱いお風呂や長湯が好きな方もいるので、見守りや声かけを行い体調に配慮しています。	事業所では午前中の中の入浴で週2,3回ほどは入ることが出来ることとなっている。浴室内の換気や冷暖房、補助具も整備されており安全に入浴できるように支援している。お風呂は楽しみの一つでもあるので、その方に応じてゆっくりと入浴できるように対応している。季節に応じて、ゆず湯や菖蒲湯など変わり湯も楽しんでもらえるようにしている。入浴拒否のある方への対応も工夫して入浴が出来るように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の明るさ、温度をご本人に合わせて調節しています。日中でも様子を伺いながら時には休んでいただいたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の病歴の把握とともに薬の作用、副作用を理解した服薬支援を心掛けています。看護師より病気や薬についての指導も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常作業の役割があり、皆様が自らの仕事と認識し行って下さっています。また、塗り絵や工作等得意なことを楽しみとして行って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と買い物に出かけたり、季節ごとの行事で外出できる機会を設けています。また、ご家族とも外出していただけるよう連絡を取り協力をお願いしています。	行事委員会が年会行事計画を作成している。季節の行事やドライブ、地域の祭り、敬老会に参加したりと様々な外出を企画している。近隣に散歩したり、畑作業をしたりと日常的にも外に出る機会を設けている。年2回ほど法人のデイサービスから運転手と車を借りて、季節に応じた外出を楽しんでいる。包括支援センターが企画している認知症カフェにも定期的に参加し地域の方との交流も楽しみにしている。外出時には思い出作りの写真撮って、広報に載せて担当者がコメントを記入して元気で楽しく過ごしている様子を家族にも配布している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の取り扱いについては、ご家族と相談した上で、行っていますが、現在、ご自分で所持している方はおりません。希望するご利用者には外出の際に施設でお預かりしているお金より支払いを行って頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望やその時々状況に合わせて電話をかけることができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間へ季節のもや行事の写真を飾り、見て楽しんでいただけるようにしています。また、行事以外ではあまり物を置きすぎないようにし、ゆったりと過ごせるようにしています。	共有空間は採光良く明るい空間となっている。フロアには利用者と職員が共に創った作品を飾り、廊下の壁には写真を貼り季節を感じている。畳敷きの小上がりやソファーがあり、一人ひとりが好きな場所で寛いで過ごせるようになっている。窓からは畑が一望でき開放感があり、フロアには常時職員が居て、お話ししたり見守ったりと気配りや目配りがあり、安心できる生活の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やお茶など定時に集まる際の席は決まっていますが、それ以外の時間では自由に席を移動し、ご利用者同士でお話したりして過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたものをお持ちいただいています。家具やベッドも身体状況に合わせて、ご本人、ご家族とも相談しながら配置しています。	入居時は使い慣れた馴染みの物の持ち込みは自由であり、本人、家族の希望する居室作りとなっている。室内には洗面台と押入れが設置されており、生活空間は広くその人らしい居室作りを行なっている。部屋のドアにはネームプレートを設置して分かりやすい工夫もしている。部屋の掃除は個々の能力を活かしながら、職員と共に行い、自立した生活が送れるように支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやネームプレート等を設置し、施設内がわかりやすく、また安全に過ごせるよう配慮しています。		